

# 春来にけらし

(昭和十七年寮歌)

橋爪秀雄君 作歌  
李子一雄君 作曲

## 一

春来はるきにけらし白雪しらゆきの  
厚あつき衣ころもや重おもからん  
綾羅りょうらの糸いとも綻ほころびて  
朧々ろうろう深ふかき五月さつき闇やみ  
榆影ゆえい揺ゆらめく鼙鼓ここの音ねに  
夜霧よぎりに蒸むせる緑酒りよくしゅ汲くみ  
挙こぞりて踊おどる榆にれの精せい

## 二

草茅さうぼうしげき原始林もかげに  
聖きよき焰ほのを囲かこみつつ  
若わかき情熱こころは求もとむれど  
人生じんせい誰たれかよく解とかん  
ただ真まことなる愛あいに泣なく  
寮友との姿すがたの清きよければ  
春宵しゅんせうの罪つみと誰たれか言いふ

## 三

春秋はるあき糸いとも限かぎりなく  
文月ふづきの夢ゆめは織女星おりひめの  
あはれ手榴ていねの衣ころもかな  
山やまの端深はふかくたそがれて  
今宵こよひ銀河ぎんがの祭日まつりびの  
永劫えいこくの空そらを眺ながむれば  
天空てんくう流ながる星ほし一つ

## 四

雨月うげつの濁流ながれたう滔たう々と  
豊川ほうせんに聞きく世よの憂うれひ  
泥濘でいらう沈しずみ真清水ましみづの  
流ながる秋ときは見みざるとも  
墳墓ふんぼの土つちを清きよくせん  
戦いくさの庭にはを高たからかに  
七ななつの海うみの潮音てうおんよ